

常陸大宮駅周辺整備事業説明会 議事録

- 日時 令和2年8月21日（金）
午後6時30分から午後8時15分まで
- 場所 常陸大宮市文化センター ロゼホール 大ホール
- 出席者 鈴木市長，佐藤政策審議監，小野総務部長，佐藤地域創生部長，
檜村市民生活部長，丹保健福祉部長，河西産業観光部長，相澤建設部長，
草野上下水道部長，大町教育部長，内田消防長，皆川建設部次長，
木村都市計画課長
- 参加者 247名
- 次第
- 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 常陸大宮駅周辺整備事業について
 - 4 質疑応答・意見交換
 - 5 閉会

市長あいさつ（鈴木市長）

大変暑い中、たくさんの皆様方にお出でいただき、駅周辺整備に対する関心の高さが窺われるところであり、大変嬉しく感じるところでございます。

私の方からは、駅周辺整備事業の位置づけ、何故今駅周辺整備なのか等の説明をさせていただき、挨拶に代えたいと思いますが、その前に、新型コロナウイルスに関し、市民の方々からの要望がたくさん寄せられており、大半は、市内にも感染者が出てきている状況で、感染者の大体の地域位は教えてくれてもいいだろうといった要望でした。

今回の新型コロナウイルス対策は、茨城県が主体となっているため、皆様方が新聞等で得られる情報と行政が持っている情報は同じであり、皆様以上の情報は伝えられていないことから、皆様方に情報が提供できないということなので、ご理解をいただきたく思います。

これは、常陸大宮市だけではなく、隣の那珂市も、常陸太田市も水戸市も全部一緒であり、多分、全国も同じように都道府県が主体性をもってやっていると思いますのでご理解を賜りたく思っております。

今日は常陸大宮市駅周辺整備事業説明会ということで、私の方からは人口減少問題と駅周辺整備事業の位置づけについて説明をさせていただきます。

当市は数々の問題が山積している自治体ですが、その中においても喫緊且つ最重要の課題が人口減少問題であると認識しております。

暮らしを良くしようと思う場合は、地域経済の活性化が必要ですが、地域経済のメインエンジンと言われ、GDPの6割を占める個人消費の主体である人口が、恐ろしいスピードで減っていくこの

状況は、早急に取り組まなければいけない最重要課題であり、このまま放っておくと経済規模がどんどん縮小して参ります。経済の大きさは、私どもの所得の合計と一致するため、私どもの所得もどんどん落ちていき、市民、県民、国民が貧困化していかざるを得ません。

したがって、人口減少を何としても止め、人口増加に向けて政策を打っていかねばなりません。

当市の人口推移は、国立社会保障人口問題研究所が推計をしたもので、今現在、40,000人を切る位が、2060年には、18,131人にまで減少する予測が出ております。

人口の増減は、自然動態と社会動態に分けられ、自然動態は、生まれてくる子どもの数と亡くなる方の差、社会動態は、市内に転入してくる方と、市外へ転出する方の差ですが、当市の場合は、自然動態も社会動態もマイナスに陥っており、自然動態は、ここ4～5年大体400人～450人位のマイナスで推移し、社会動態は、ここ5～6年大体200人～250人位のマイナスで推移する状況となっております。

出生数は、平成17年には352人でしたが、令和元年は160人しか生まれず、この位の勢いで出生数が減っております。

転入と転出を少し詳しく見ますと、男女共に生産年齢人口ど真ん中の15歳～39歳の転出が多いことが分かり、主な転出先として、水戸市が18.6%、那珂市9.8%、ひたちなか市が6.7%、常陸太田市が5.4%と、近隣市町だけで40.5%を占めており、非常にもったいない状況であります。

車で水戸に行くのにも、すいてれば30分位で行けるにも関わらず、転出してしまう状況なので、今後しっかりと対策を考えていかねばいけません。

男性については、転出超過のブレが年によって比較的ありますが、女性については毎年一貫して100人以上転出超過が続いている状況です。

人口問題研究所が推計したもので、100人の男女が常陸大宮市に生まれ、90歳まで生きたときに何人が常陸大宮市に残っているかを推測したグラフがありますが、女性が60.7人、男性が82.7人となっており、注目すべきは20歳～34歳の女性がどんどん常陸大宮から出て行く傾向があるということです。

20歳～24歳は多分、大学等の学校関係で出ていき、男性はそれが終わると若干地元に戻ってきますが、女性の場合は20歳～34歳という結婚適齢期、出産適齢期の方々が、当市から出て行ってしまうので、少なくとも男性並みに戻すことが一つの鍵だと言われております。

ここまでの整理をしますと、当市の人口の特徴は、出生数の減少が過度に進んでおり、転出超過がずっと続き、15歳～39歳という最も定住して欲しい年代の転出が多く、中でも女性は毎年100人以上の転出超過となっている町であるため、20歳～34歳の女性の定住率向上がポイントになるということです。

人口減少を止めるためには、自然動態、社会動態の2つの方法論がありますが、自然動態は人間の生死に関わる問題であるため、神の領域であり、行政が首を突っ込むところではなく、また、一人の女性が15歳～49歳までに生む子どもの平均を合計特殊出生率と言い、人口の増減がない水準が2.07と言われていたのに対し、本市の場合は1.26で、人口減少が過度に進むような状況にあります。

自然動態の減少には、未婚化、晩婚化等いろいろな原因があると言われてますが、一般的に経済的側面が大きいと言われており、例えば、1組の夫婦が、3人子どもが欲しいが、大学等教育費にかか

る金額，育てる経済的な余裕がないため，1人で諦めてしまう等の経済的側面が，自然動態には一番影響していると言われております。

そのためには，一家庭の所得を上げていかなければいけません，マクロ経済の問題になってきますので，市や県でどうにかなる問題ではなく，国がしっかりと経済対策をしなくては改善されません。

自然動態で減少幅を食い止める，プラスにしていくために市ができることは，子宝に恵まれない夫婦の皆様方に対して，不妊治療の助成をしっかりとやること位しか有効な手段はないと思っております。

市が一点突破で取り組むのであれば，社会動態，中でも女性の社会動態をプラスにすることに注目すべきで，これが叶えば，当市にたくさんの女性が住み，中には子どもを産む方もおり，自然動態にも影響を与えます。

当市の状況を自分なりに分析して，これからは女性，子育て環境がキーワードになると感じており，子どもを産み育てたいような，子どもの将来に期待が持てるような，子育ての素晴らしさが実感できるような，更には女性に優しく女性が住みたいと思うような，女性が輝くようなまちづくりをしていかなければ社会動態を増やすことはできないと感じていることから，今述べてきたことを踏まえた上で，総合計画をベースに人口減少対策にターゲットを絞った，創生総合戦略というものを作成しており，駅周辺整備事業はその一分野と認識をしていただきたいと思います。

今まで述べた女性に優しい町，子育てに優しい町，目指すべき町の姿としては，子育て世代のお母さんが住みたいと思うような町，子育て環境の整った街並み，住んでいることがステータスになるような景観等を，今やらなければ益々出遅れてしまうと感じております。

現実問題として，駅周辺の市街地の人口減少は見られておらず，むしろ増加傾向にあると言っても過言ではありません。

これから当市が，駅周辺に様々な投資を行っていきますと，民間のディベロッパー，あるいは開発業者等も投資をすることが見込まれ，そういった官民連携の中で，住宅がこの常陸大宮の駅周辺にどんどん張り付いていけば，医療やショッピング，あるいは教育環境を包括したコンパクトシティ形成に勢いがついていくと思っております。

ここまで高齢者施策について何も話をしませんでした，人口減少を抑制するためには，当然高齢者の皆様方に健康で長生きをしていただくことは言うまでもないことであり，駅周辺整備計画には，高齢者の皆様方の健康維持のためのヘルスロード構想も盛り込まれております。進んで散歩に行きたくなるようなヘルスロード，途中途中で設けられる予定のポケットパーク等の様々な構想がありますので，以降の説明を楽しみにしていただければと思っております。

最後になりますが，本日は人口減少対策を目的とした創生総合戦略の中の一分野である駅周辺整備に特化した説明会，意見交換会となりますので，駅周辺以外に展開される様々な人口減少対策の施策も，時代のニーズに合わせて進化させていくことは必要だと思っております，論点を明確にするためにも，意見や質問は駅周辺整備に関することに特化していただくよう改めてお願いをしたいと思います。

他の地域はどうかという話になるかと思いますが，今構想を練っているところであり，後日また別の機会を設けたいと思っておりますので，その際に質問，意見を出していただきたいと思います。

常陸大宮駅周辺整備事業について（木村都市計画課長）

常陸大宮駅周辺整備事業は、目指すべき駅周辺の将来像を、魅力と活気あふれる快適なまちづくりをテーマとして取り組んでいく事業でございます。

常陸大宮駅周辺の現況と課題について、1つ目として、人口減少により、公共交通機関としての鉄道利用における、通学、通勤時の連結車両数が現在は減少している状況であり、また、中心街とも言える駅前には、利用者数の減少に併せるように空き店舗が目立つようになり、駅周辺の魅力が低下しております。解消するには、常陸大宮らしい地域資源を活用したまちづくり、街中に人々が集うような賑わいづくり、そして、それが町の顔のイメージへと定着していく取り組みが必要だと考えます。

駅周辺は駅前広場が狭いことにより、列車到着時の送迎車両による混雑、路上駐車、安全性が確保されていない道路の存在、また、乗車数が2007年の1,140人から、2019年は935人と緩やかに減少していることから、駅周辺の道路や、交通機関の乗り換えの結節点としての機能、安全性の確保が課題となっており、それらの課題を解決するために常陸大宮駅周辺整備を進めていかなければなりません。

これまで市で進めてきた事業の経過として、『魅力と活気あふれる快適なまちづくり』～ひとが集い、まちが輝く駅周辺整備を目指して～のテーマを目指し、5つのまちづくりに必要なコンセプトを基に、広報誌などでお示しした整備計画を作成してきており、年度ごとに行ってきた事業の進捗はスライド（資料：③これまでの経緯（平成27年度～現在）まで）のとおりです。

現在、駅舎、自由通路等の詳細な部分について、関係機関と協議を進めているところであり、これらの整備方針をまとめた整備計画書を、資料として配布しておりますので、お読みいただければと思います。

本事業の整備方針は、第1期の5年間で整備する主な整備内容となっており、スライド（資料：④整備の方針）又はお手元の整備計画書6ページをご参照ください。

最初は、魅力ある駅周辺の環境づくりとして、3つの整備を行うもので、東口の整備に伴う駅舎や駅前広場、都市計画道路、駐車場整備となります。

2つ目は、ひとにやさしい駅周辺の環境づくりとして、道路などのインフラ整備に対する利用者満足度を向上させる2つの整備方針で、安全性、回遊性に配慮した使いやすい整備と、市の中心にある医療福祉施設との調和のとれた整備を目指すもので、具体的にはスライド（資料：④整備の方針）の2つの取り組みを行って参ります。

3つ目は、駅の新たな顔である駅西口として、現在駅の西側には行政機関が集中し、大規模な店舗も出店されていますが、新たに駅改札を設置し、整備することにより、新たな空間の創出と、行政機関との連携強化を図るもので、具体的には駅西整備と歩行者ネットワークの強化を図って参ります。

4つ目と5つ目は、安全性、防災性、生活環境の整備と計画的な市街地の形成を図るものとして、これらのために次のような取り組みを進めて参ります。

第1期5か年の主な整備計画について、常陸大宮駅関連では、3つの事業を展開していくこととし、1つ目は、駅舎、自由通路の整備であり、駅舎を建て替えると共に、東西を繋ぐ通路の整備を行います。

2つ目は、駅東口広場の再整備と、新たな駅西口広場の整備を行います。

3つ目は、駅へのメインのアクセスとなる都市計画道路並びに生活道路の整備を行います。

具体的な駅舎、自由通路の全体計画として、JR 東日本との協議により、当市に最適と考えられる地平駅舎とし、現在の駅舎の位置より少し南側へ移動する形となります。駅舎と接続する形で整備する、エレベーター、屋根つきのバリアフリーに配慮した自由通路は、駅利用者以外の方も常時利用できますので、東西の往来と交流、連携を図って参ります。

また、新たに西口にも2番線を安全に利用することが可能となる簡易の改札を新設する計画で、簡易なSuica改札機と、乗車駅の証明書の発行機を設置する考えです。これまでは、駅構内の踏切を通行して2番線を利用しておりましたが、安全に配慮し、西口からは直接、東口からは自由通路を経由して利用することになります。

スライド（資料：7, 8）具体的な整備計画（案）は、東口からの改札利用イメージで、自由通路には、エレベーターの設置により、高齢者、妊婦、身体の不自由な方の利用も便利になります。

全体的なイメージとして、既に整備がされている他の駅の整備イメージをお示ししており、あくまでも参考でございます。

整備により、東西間の連携が容易に図られることで、地域間の日常的な通行が生まれると考えられ、また、バリアフリー等により、利便性の向上が期待されます。

東口広場計画についての具体的な配置案として、東口は旧大宮町時代にプロムナードを整備しましたが、現在の奥行きが狭いロータリーでは容易にバスの回転ができず、待機中の一般車との交通混雑を招いているため、2つのエリアに分散し、新たに待機用の駐車エリアを設けることで、この問題を解決していきたいと考えます。

また、駅前広場の緑色の部分の環境空間については、今後イベントの開催や本市のイメージづくりとして活用して参ります。東口の規模については、スライド（資料：10）駅前広場の計画（案）の施設計画となっており、整備計画書では41ページから45ページに記載しております。

西口広場については、新たな広場として、スライド（資料：11）駅前広場の計画（案）のような整備を図っていくもので、詳しくは整備計画書の46ページから50ページに記載しておりますが、行政エリアとの連携を図りながら、西側に広がってきた市街地との調和を図った整備を進めていくもので、駅東西の駅前広場の整備後のイメージとしてご参考ください。

これらによって、円滑な交通処理による安全性の向上と、駅改札への安全なアクセスを可能とします。

都市計画道路である大宮停車場線の整備について、道路幅員を16mで都市計画決定されている本県道は、家屋の移転や建設コストの縮減、また、土地利用の観点から、現在の計画である現道を中心とし両側8mを、北側の道路境界から16mと、南側に移動した計画としており、お住まいの皆様からの聞き取りや地区説明会等を経て、道路管理者である茨城県と協議を進め、都市計画決定の変更をして参る考えでございます。

特徴的な計画として北側歩道を4.5mとし、医療、福祉施設と連携した健康増進や、商店経営者の利用を可能とした整備を県と進めていくもので、整備後のイメージはスライド（資料13）道路整備計画（案）のような形となり、整備計画書の26ページから29ページに記載されております。これにより、円滑な交通による安全性の向上と、無電柱化による歩道空間の確保、都市的景観が期待されます。

また、本事業においては、駅周辺の市道整備を併せて行っていくもので、3期15年に亘る整備

となりますが、初期の5年は駅へ向かうアクセス道路の強化、生活道路の整備を図ると共に、交通ネットワークの形成と、安全な道路を造って参ります。

一方では、まちの顔としてのイメージづくりに向け、ヘルスロードの整備や防犯の強化、自転車の活用など、各種計画と連携しながら、町の活性化をインフラ整備と共に考えていき、整備される都市施設である駅前広場、道路、歩道を利用したイベントの開催も考えていくもので、詳細については計画書の78ページに記載してございます。

これらは、官民で連携をした取り組みとなり、イメージ案をスライド（資料：16）まちの顔としてのイメージづくりに向けて）にまとめましたが、まず、賑わい創出の計画として、5点を取り組みの中心と捉え市街地の活性化を図っていき、また、防犯対策や水郡線利用促進にも取り組んで参ります。

本事業においては、健康づくりをテーマとしたまちづくりに取り組み、医療機関と連携し、多世代が元気で安心して暮らせるまちづくりを目指すため、既存のヘルスロードに加え、街中を健康増進のために歩ける施設整備と、歩きやすい環境整備を行うものとし、既存の1.9kmのヘルスロード整備と、新たに計画区域外周の6.2kmの整備を検討していくことで、健康増進を図り、医療費の削減と歩行者の増加を図っていきたいと考えております。

駅の西側に取得した市有地については、市民交流の場として多様な機能を併せ持った都市施設の整備を検討しており、今後、駅周辺整備計画と連動しながら、どのような施設が相応しいのかを検討して参ります。

これにより、市内外の交流人口が駅周辺に集まることが期待され、生活環境の改善や、文化的なまちづくりを進めて参りたいと考えます。

また、官民連携による人口減少対策として、JT跡地利用について協議を行い、定住施策としての取り組みを進めます。民間事業者との連携を図ることで、効率的な生活道路の整備と、整った街並みづくりを行うことができ、将来の道路ネットワーク形成の支障とならない整備や、民間住宅による人口増加が期待できますので、今後は事業者と綿密に調整を行いながらまちづくりを進めて参ります。

今後はスライド（資料：21）これからのスケジュール）にお示しするスケジュール間で事業を進めていくもので、計画書では85ページに記載しておりますが、令和3年度より、国の交付金事業として取り組み、初期5か年の内、中盤から終盤で駅舎、自由通路、広場等の整備を行います。

生活道路の整備等については、既に計画を進めているため、関係者の用地買収等の状況により、まとまった路線から順次事業を開始する予定でございます。

以上が本事業の概要説明で、詳細については常陸大宮駅周辺整備計画をご覧くださいませようお願いいたします。

質疑応答・意見交換（市長・各部長）

質疑応答①

諸沢地区 A氏

鈴木市長に質問をお願いしたい。

たしか常陸大宮は、広報誌によると、都市計画第2条に基づいて、意見を募ったはずだが、JR水郡線の常陸大宮駅から直線で行った、今は更地になっている日本たばこ（JT）跡地は、今でも日本たばこ（JT）の敷地で、日本たばこ（JT）は今でも政府が株主の1人になっているはず。

その使用許可はどうするのか。

回答：鈴木市長

その件については、JTの前の専売公社の段階の話したと思うが、今は名義変更がちゃんとされており、今後の計画には支障がないと思う。

質疑応答②

若林地区 B氏

最初に市長が、駅周辺整備が人口減少を止めるように話したのは驚いたが、人口減少の問題としたら、旧大宮町以外の旧町村の方が、感覚的にはかなり多いと思う。

市長が最後に駅周辺の開発ではなく、大事な別な問題を言ったと思うが、そちらをやるべきという感情を持った。

駅周辺整備の具体的な話をしていただき、かなりすごい計画だと思ったが、いくらかかるのか。単年度でやるわけではないと思うが、事業総額、予定上限金額があるはずなので、説明していただきたい。

また、この駅周辺の整備事業はいつから始まるのか、始まることの決定はいつするのか、既に決定されていることなのか。

その2点を回答いただきたい。

回答：相澤建設部長

2点について、まず、この駅周辺にかかる事業費はいくらかという質問だが、現在、道路事業、駅舎、自由通路について試算をしている段階であり、特にJR関係の施設については、JRとの綿密なる協議が必要であることから、現在金額をこの場では言えない。

また、道路事業については、これからの用地交渉、同意、その他があり、全体的な全事業費が総計いくらになるかというのを現在算出中であるため、もう少しお待ちいただきたい。

この事業がいつから始まるのかということだが、本年度、国に対して申請書を上げる予定であり、令和3年度からこの事業を着手していきたいと考えている。

若林地区 B氏

もう進んでいると、決まったということか。用地買収までもう話が進んでいるのか。

金額もまだ分からない段階で、進んでいくのは納得いかないところある。何故その様なやり方をするのか。

自分で何か買い物する際でも金額を決めないでやらないと思うが、どうしてそういう話になるのか。

議会でこれを決めて、金額等も決定してからスタートするのではないのか。

回答：相澤建設部長

金額については各関係機関と今現在調整中である。

決まったかどうかの話だが、これから国の方に申請し、採択を受けて事業を着手する予定であるため、今時点で既に決まった、始まるということではないが、市の方では来年の令和3年度から事業着手を目指して事業展開の申請等を進めている状況。

なお、市議会に対しても、順次説明をしている。

計画についてパブリックコメント、その他広報誌を通して話をしていくと共に、関係地権者の皆様には幾度となく意見交換会をしてきており、その中で現在の基本計画から、この整備計画へと事業が流れている。

質疑応答③

小祝地区 C氏

市の方に提案がある。

西口の整備は、中核となる博物館を中心として、中央公民館と子育て支援施設をセットにし、残り防災緑地、イベント広場の形で整備していくのが一番効果的かと思っている。

博物館については、箱モノ行政に対する批判はあるが、どのように活用し、効果的に使っていかばいいかは既に議論しており、他所にないような博物館ができると思う。

目玉は重要文化財に指定された泉坂下遺跡の人面付の土器で、弥生の再葬墓研究センターも設置できると考えられ、また、もう1つは、常陸大宮市で生まれたと言われている雪村で、雪州以上に海外で評価されている人であり、重要文化財が9点と、茨城県では横山大観よりも多い数が指定されている。この2つを目玉にし、顔となる博物館をつくれればいいのかと思っている。

博物館は、いろんなシンクタンク機能を持たせることにより、県内外、国外からも研究者が集まり、いろんな人が来くることで、交流人口、関係人口が増え、常陸大宮市の魅力が増える。

これは、郷育立志を目指している常陸大宮市にとっても大きい成果が出ると思う。

もう1つは、子育て支援施設を、防災緑地とイベント広場とセットにすることにより、機能が高まり、更に中央公民館を造り、博物館をセットにすることによって、相乗効果が生まれる。

この地域は、ロゼホールと図書情報館と2つの教育文化施設があり、そこに博物館が設置されれば、万全な教育文化ゾーンになると思う。

効果的に長期に向かって常陸大宮市の魅力を内外に発信できるような、そして市民が集えるような施設として、博物館を核にして、中央公民館、子育て支援施設をセットするセット開発、そして、残りの土地を防災緑地としてイベント広場として活用する。

そのような有効利用をぜひお願いしたいと思って提案する。

回答：相澤建設部長

駅西に購入した市有地については、スライドでも見せた通り駅西の駅前広場の構想をしている。

駅西は計画でも教育文化ゾーンという位置づけになっているので、残った土地については、先ほど提案があったこと、31年度に市の方にいただいた博物館建設に関する答申も十分に重視し、駅西の地域が、行政区域、駅西の新しい顔となるよう、今後、十分に検討していきたい。

なお、本年度に申請書を提出する形になるので、計画書に間に合うかどうかは不明確ではあるが、文化ゾーンの中でいろいろなことを検討していきたい。

当建設部以外に教育部、他の部も関係してくるので、関係部局と十分に調整を図りながら工事、事業の展開を進めていきたいと考える。

質疑応答④

山方地区 D氏

地域資源を活用したまちづくりということを重点にしているとのことで1つ提案だが、地域資源と言うと常陸大宮市は県内でも有数な杉や檜を産出林業地であり、市有林の人口面積が県内第2位でもあり、林業就業者も県内第2位でもある。

また、常陸大宮市は森林面積が62%で、茨城県の森林面積が31%ということで、県平均の約2倍を森林が占めている。

市内には優良な木材を生産する林業事業者や原木市場、製材工場や木材流通業者や木材の二次加工所などが多数存在しており、宮の郷工業団地の木材コンビナートにおいては、BP材で大きな材面や、梁やケタ、柱なども供給可能になっており、大きい構造材でも、鉄骨ではなく木造で作れるような状態になっている。

隣の太子町では、今度庁舎が新しくなるが、木造で造ることになっており、また、県の補助も今はある。

今度の施設整備においては木造や内装材、市に優しい女性にも優しい、子育てにも優しい木造をぜひ使っていただきたい。

回答：相澤建設部長

本市における林業については、県内でも有数であり、良質な木材を産している地域である。

したがって、本市においても地場産である木材を十分に活用していきたいと思っている。

駅舎、自由通路等建設の際は、後年度の維持管理という部分も出てくるが、内装材等については十分に検討させていただきたい。

質疑応答⑤

宮の郷地区 E氏

市長の意見に大変感銘を受けた。

人口を増やしていかなければいけないところが、一番の鍵だということもあり、提案をさせて

いただきたく思う。

若い世代の人たちを留める、呼び寄せるためには、衣食住の住が大事になるが、住はどのような形になるかと言うと、結婚して住む所をどのように作っていくかであり、計画書には居住エリアはあるが、今の若い人たちは、かっこいい、綺麗な街並み設計を重点ポイントに置いていると思う。

2番目としては、所得が上がらなければいけないというところがあるが、日本の今の構造からすると所得が上がっていく構図ではないため、家を求めるときに逆にコストを抑えるやり方だとかどうかという考え方がある。

常陸大宮市も現在補助制度はあるが、更に手厚い補助等々を検討いただけると、所得が上がる、ではなく、ある程度買いやすくなり、そのような環境を整えていくのは重要だと思う。

もう1つは、出しっぱなしでもいけないので、片方では上げる戦略の提案になるが、先ほど工業団地の話もあったが、そのような工事関係の最後に至るところまで、市内の業者をきちんと使えるような仕組みづくりの建て付けをして、尚且つそこに雇用が増えるような形にしていただきたい。

今、中小企業で困っていることは、なかなか人が集まらないことであり、中小企業単体でやっても集まらないため、例えば市の方で音頭をとり、雇用関係を他県並びに他の所から呼び寄せてくるような仕組みづくりも建て付けしていただけるとありがたい。

尚且つ、常陸大宮に住み、常陸大宮で働く方については、より手厚い施策を考えていただくと、定住率も上がっていき、町が活性化し、子どもが増えるような環境になっていく1ページになるのではと思ったので提案する。

回答：相澤建設部長

建設部においては、都市計画マスタープランを令和2年の3月に策定し、具体的な計画として立地適正化計画の策定を進めている。

これは将来の常陸大宮の市街地をどのような形に、姿にしていくのかという方向性を示す計画書であり、現在、インターネット上でパブリックコメントを実施し、皆さんの意見をいただいている。

市長の挨拶にもあった通り、これからは官民連携の中で、特に民の財力、民のスピード感を官に生かしていくことが大変重要だと思っており、中心地である、常陸大宮駅を開発するだけでなく、その周りに都市機能を集めながら、その外に更に住宅エリアと周遊居住誘導地域を設けていき、この地域に住んでよかった、住みたいと言う、思うようなまちづくりを目指し、その方向性を皆様に示すために計画書を進めている。

社会動向によっては今後変わってくる状況もあるため、随時見直しをしながら、官民連携の中でいろいろな住宅施策をとっていきたい。

回答：河西産業観光部長

住んで働く場所がないと、人も住み続けられないため、若い人が住み続けられるように、企業誘致等も考えながら、また、新しい雇用を生むようにということで、例えば木材関係の事業者に対して、手厚い施策を今後考えていきたい。

質疑応答⑥

上町地区 F氏

市長の話だと若い女性が一番減少しており、大変心配しているとのことだったが、個人的にその問題に直面している。

アパート経営をしているが、2組の入居があり、ご主人が同じ会社に勤めている新婚夫婦がいた。子どもができ、奥さんは水戸の会社に共稼ぎで勤めていたが、水戸に通うため、大宮で子どもを預ける場所を探したが、なくて大変困ったと言っていた。

ではどうするかと言うと、結局は水戸に居を構える、住まいを移すしかあるまいということで、私のところに来た。旦那はどうするのか聞いたら、旦那は水戸から車で通ってもらうことで、話し合ったということだった。

若い女性がどんどん子どもを産んで、共稼ぎをするのに何が必要かと言うと、子どもを安心して預けることのできる場所が大変必要だと思う。これによって、若い女性の減少するのは防げるのではないかと思う。

西口にこれからできる建物の中に、そういう建物も検討していただき、若いお母さんたちがそこへ子どもを預けて、水戸なり他なりに勤めることができるような建物を建てれば、市長が心配するように若い女性がだんだん減っていくということが解決できるのではと思う。

回答：丹保健福祉部長

保育所の件だが、昨年の10月時点、今年の4月時点の待機児童は0人と聞いており、恐らく預ける場所はあると思うので、もしそのようなケースがあったら、市役所の方に相談いただきたい。

また、安心して女性が住める町ということで、先ほど駅西の土地の利活用のところで子育て施設と提案があったかと思うが、アンケートを採ると、子連れでも出かけやすく、楽しめるような場所が欲しい、児童公園等が欲しいというような意見も多数あるので、そういった意見なども踏まえながら、具体的な計画の策定に取り掛かっていきたい。

質疑応答⑦

南町地区 G氏

東口の道路拡張の件だが、現時点で両側拡張、片側拡張の2案でまだ結論が出てないようだが、地権者の個別の話し合い等、現時点で今後の詳しい予定が決まっていたら教えていただきたい。

回答：相澤建設部長

大宮停車場線に関する話だと思うが、現在大宮停車場線は県が管理している道路である。

都市計画道路として、現在中心から8m、8mの16m道路という形で都市計画決定がされているが、東口広場の位置を決定するために県と協議をし、基本的に北側から16m、現在の南側へ5.5mほど拡張するような計画で予定をしている。

この計画については、今後都市計画の変更手続きを伴い、告示後に設計の方を進めていく。

本年度は地形測量、その他の測量を県の代行で市が行っていく計画。

当然駅周辺の整備計画とは別に、大宮停車場線の道路改良工事の説明という形で、別途説明会を

開催していきたい。

南町地区 G氏

新たにそういう機会を設けるということか。

回答：相澤建設部長

別途に路線の説明会を設ける計画。

質疑応答⑧

中富町地区 H氏

先ほどいろいろ市長から話があり、人口減少に対してどのように対処してくかということで、特に若い女性が大宮に住みついてもらうような計画で、駅周辺の事業をやっていく話だったと思うが、それは少し食いつきが薄いと思う。

常陸大宮市は駅周辺だけではなく広くあるため、もっと別な方面から、駅周辺がどのようなことでやらなくてはいけないのかを、はっきりさせていただけたら良かった。

今までに駅周辺の方々の意見交換会や説明会等があったが、意見交換会はコロナで延期ということで、代わりに説明会を6月にやったと思うが、私も参加したところ、6人位の定員のところに1人だけで、近所の方にも聞いてみたが、やはり1人しかいなかったとの話を聞いた。

この問題に対して関心が強いという話があったが、実際に駅西の周辺に住んでいる人たちはそんなに関心があるようには思えない。

説明会の時に意見交換会ができなかったため、意見を言ってもいいとのことで、いろいろと話をし、皆さんも話したと思うが、どの程度この計画に取り入れられたのかを聞きたい。

また、国に申請書を出すと言う話だったが、申請書を出さなくてはいけないため、急いでいるのかと思ったがどうなのか。

コロナ、それから去年の水害で大変な思いをした人がいっぱいいる中で、大宮駅周辺はとても恵まれた地域で、いろんな建物ができ、人口も増えていると思うが、恵まれた地域にだけ集中して開発すると言うのは、他の方に申し訳ない思いがある。

私は西口のど真ん中に住んでいるわけだが、高速バスを乗り入れる等、どのように住んでいる所が変わってしまうのか、具体的なことが分からないので、先ほど誰かが話したように、どの位のお金がかかるのか、それだけかけてどうなのかと言う思いがある。

やはり周辺開発と言うと、安心、安全なまちづくりの一端であると思うが、踏切が危ないところが何箇所かあるため、周辺開発にこれだけの情熱をかけて取り組むのであれば、そちらを優先的にやってもらいたい。

いつもそこを通っているが、踏切を渡るのが本当に大変であるため、周辺の整備とは切り離して、地権者とも話をし、JRとも話をし先に進めていただきたいと思います。

回答：鈴木市長

最初の件について、大宮も広く、駅周辺だけではどうしようもないのではとの話だったと思うが、当然人口を集積させる場所というのは立地特性があると思う。

常陸大宮は確かに広く、美和地区もあり、御前山もあり、山方の諸沢の方の地域もあるが、人口を増やそうと思うときに、人口が定着しやすい場所、災害も少なく、比較的買い物も容易である所に投資をするから費用対効果が上がり、投資効率が上がると思っている。

確かに駅周辺だけでは、こういった問題に全面的に立ち向かえるわけではなく、これから常陸大宮市の都市計画区域をしっかりと整備していく大きい計画の中の走りが、駅周辺整備だという認識でお願いしたい。

災害を受けた方もいる中で、自分たちの周辺がそのように変わっていいのかという気持ちは大変ありがたく感じるところだが、全体の経済状況を良くするために、投資効率の良いところに投資をしていくというのは致し方ないのかと思う。

だからと言って周辺を疎かにするというわけではなく、先ほどの挨拶でも言ったように、周辺には周辺のいわゆる交流人口を増やすための構想等を持った上でやっているつもりなので、ご理解をいただきたい。

回答：相澤建設部長

この駅の整備事業は、駅舎と広場だけみたいに関われるが、先ほど都市計画課長が説明したとおり、駅の東口西口に並行して走っている道路、狭隘な道路等々の整備、そして雨水整備等々も考えながら事業を進めていくものである。

駅だけを直す、自由通路だけを直すということでは、人口減少を止めるのは難しいかもしれないが、周辺の環境を良くすることにより、そこに住んでいただける、住んでもいいと思っていただけるような環境をつくっていくのが、1つの大きな仕事ではないかと考えている。

また、今年出すから急いでいるのではないかという質問だが、この事業については、平成28年度から本格的に始まっており、29年度に基本計画、整備計画とJRの協議が進んできている状況であり、長いスパンの中で、この令和3年に焦点を絞って事業を進めてきているところなので、来年事業をスタートするから急いでいるということではなく、本説明会も含めて、そういうタイムスケジュールの中で今動いている状況であるにご理解をいただきたい。

質疑応答⑨

大岩地区 I氏

何点か質問したいと思うが、先ほど市長から今回駅周辺の整備を重点的にやる考えだという話があり、その他の地域、いわゆる吸収合併された地域の町村についてもしっかりとした計画を進めたいと考えていると話があったと思うが、具体的にその計画がどこまで進んでいるのか、いつ市民に対して政策を示せるのか。

これは同時に進めて行かないと地域の住民にとっては納得のいかない計画ではないかと思うがどうか。

もう1つは、今回説明会があり、大変重要な説明会だと思うが、相当大きな金額が投入される計画であるため、今回のような説明会は今回で終わりにするのか、更に回数を重ねるのか、あるいは他の地域で開く計画があるのか、その辺も聞いておきたい。

3点目になるが、先ほどの説明の中で、一体どの位総額の予算が予定されているのかと質問があったが、JRと交渉中等いろいろな理由があり示すことできないという話だったが、少なくとも総

額、概要を示してくれるかと思って期待したが、それがまったくなく非常に残念である。

当然市民はどの位の予算がかかるのかが非常に注目的であるため、財源はどのように予定しているのか、補助がいくら、JRの負担がいくら、持ち出しがいくらで、その割合のパーセントで大体分かんと思うが、その程度のことは当然示されるべきだと思う。

もう1つは、3年度から実施をしたいという話で、もう2年なので来年の話だと思うが、当然これは十分に議会等にかけて審議をして、市民がよく分かるような内容を示すべきだと思うが、いつ議会等に大まかな予算の内容等を、限度額等も含めて示す予定なのか、その辺をはっきり示していただきたい。

回答：鈴木市長

その他地域の構想について、挨拶の冒頭と最後に言ったが、今日は駅周辺に特化した説明会、意見交換会ということなので、その辺の説明については別途日程が決まり次第連絡したいと思う。

回答：相澤建設部長

今回のような機会は他にあるのかとの質問だが、駅舎、自由通路、駅前広場、都市計画道路大宮停車場線については都市計画決定が必要となるため、都市計画審議会において審議した経過の中で、当然公聴会というものが開かれるので、そのような場でまた話をさせていただきたいと思っている。

2つ目の市議会も含めて金額等々をもう少し話してほしいとのことだが、相当たる金額については、先ほど話したが控えさせていただきたい。

なお、本事業については都市再生計画、今は都市構造再編集中支援事業に名前が変わったが、補助率1/2の事業であり、国から1/2の補助を貰って実施する予定である。

最後の4つ目について、議会等に対していつ示せるのかということだが、本年度中には間違いなく再生計画を作り上げるので、でき次第、市議会を通して皆様方にも話をさせていただくことがあろうかと思う。来月、再来月とかではないが、本年度中には間違いなく金額も含めて全体事業費の話をする時期が来ると考えている。

質疑応答⑩

野中町地区 J氏

空き店舗について、市長がどう考えているか、この1点だけ聞かせていただきたい。

回答：鈴木市長

空き店舗、空き家というのは、今全般的に問題になっており、今データをしっかりと集めてデータベースをつくっているところで、空き家、空き店舗の活用というのは大変重要なことだと思っているが、それが今から街並みづくりの中で生かせるのかという部分が、検討課題になると思っている。

利用するというのが普通の考え方だが、どの位お金をかけてリニューアルしたら街並みとしてそこにマッチするものになるのか、取り壊して新しくつくった方がいいのかというところもあるのではないかと思っている。

野中町地区 J氏

今現在駅周辺内には空き家等が結構あるが、市長はそれをどうお考えかを聞きたい。
建設部長にも、駅周辺整備はその空き家をどう利活用していくのか聞きたい。

回答：相澤建設部長

市の方では一昨年に条例を作成し、空き家対策計画書を作っている状況で、その中に空き家、空き地の利活用等も書いている。

空き家の利活用として、管理が十分でありすぐに使える空き家については、民間不動産業界と提携をしている空き家バンク等に登録し、その中で使える方の募集をしていきたいと考えている。管理不全ですぐに住めないような空き家も多々あるかと思うが、これについてはどのようにしていくかが今後の課題であり、空き家対策計画の中にも解体という項目を検討していこうという話になっている。

そこにもものがあることによって、土地が利活用できないというケースもあり、取り壊して更地になれば、新たな方がそこに入所する契機にもなる可能性もあるので、解体費用の面も含めて多面的に検討し、また、民間の方とも話をし、どのような活用があるのかを検討し、空き家対策に臨んでいきたい。

回答：鈴木市長

先ほども官民連携という話が出たが、行政が担当する部分を行政がしっかりと整備したことによって、民間が移転してくる可能性もある。

空き家については、行政が担当する部分であれば壊すべきは壊し、そうではなく、民間がそこを利活用したいのであれば、壊して作り直すも、そこをリニューアルするも民間の方の判断になると思っている。

質疑応答⑪

野中町地区 K氏

2点聞きたいと思うが、1点目は市長から説明があった少子化対策について、もう1点は駅周辺事業の活性化について聞きたい。

1点目の少子化対策について、女性の流出を防ぐという話だったが、常陸大宮市で子どもを産むというときに、産婦人科がなかったと記憶している。

駅の近くには志村大宮病院と言う医療体制の整った病院があるが、イメージとしては介護、医療の色が濃い印象がある。

女性の流出を防ぐ産みやすい環境をつくるというところでの、出産、子育てに対する医療、福祉の取り組みは、何かしらのアクションが今後あるかと期待しているが、市に産婦人科等の誘致等を考えているのか。

2点目は駅周辺の活用について、駅東側、西側の具体的な構想図を見て残念に思ったのは、商業に関する施設が図になかったところである。

現在の駅は、学生の利用が特に多く、他県から来た仕事の関係の方も利用されると思うが、皆口々にするのは休憩できるようなスペースがない、ご飯を食べるような場所がない、何か物を買うよう

なコンビニもないという意見をよく聞く。

既存する駅の本通りの商業施設を活性化させるための具体策、練っているものがあれば紹介いただきたい。

また、西エリアはせっかく広いエリアを買ったので、道路だけというのはもったいないと思っている。

西口に大きな駅舎を建て、その中に商業の複合設備等も抑えるのかと思っていたところ、駅舎が意外にも小さいままで少しがっかりしたが、今後の具体的な店舗の計画はあるかとは思いますが、活性化とはどういうことを言っているのか、車の行き通りが良くなって活性化なのか、歩行者天国のように駅周辺に人の行き通りがあり、開いている店舗に光が籠れていることが活性化なのか、どういったビジョンを具体的に描いてそう言っているのかを聞きたい。

回答：丹保健福祉部長

1つ目の質問の医療のことについて、茨城県は医師不足と言われており、小児科医、産科医は特に少ない状況である。

小児科医は先日常陸大宮済生会病院の方に3名程確保したところだが、小児科医、産科医については常陸大宮市が何人か呼んでくるというよりは、県北エリア全体で考えるべきことと思っている。

小児科に関して言うと、子どもをもつ親が、例えば夜中や休日に熱をもったときや、具合がおかしいときに、相談できる場所というのは必要不可欠と思っており、今県と、県北エリアの市町村や、医師会の先生、医者と県北エリアの小児医療でどういうことができるかを検討しているところである。

医者を連れてくるのが一番だとは思いますが、それができないにしても例えば電話やアプリ等、相談ができるツールなどもあるので、そういったものを使いながら、具体的に何が出来るかを今検討しているところであり、検討結果についてはまた皆様に説明できればと考えている。

回答：相澤建設部長

駅東も含めた賑わいの創出について、スライドの中でも一部案的なものを示したが、常陸大宮市は駅をつくったからすぐに商店が張り付き、すぐにインフラを整備して、ものがどんどん出てくるような状況でないと思うが、そのような状況をつくり出していかなければならないのも事実。

したがって、先ほど言った駅前の都市計画道路である大宮停車場線、御前山街道、要するに宮中清水線の方に向かう東富大塚線、そして、プロムナードと、4方向の道路を使ったいろいろなことを考えていかなければならない。

特に駅前の道路についてはプロムナードがあるので、考えようによっては、16m×180mという大きな交通広場、イベント広場となることから、その中でいろいろな催し物、イベントを行い、少しでも賑わいを戻す1つのきっかけをつくり、そこに店を出してみたいと思わせるよう誘導できればと思っている。

これは、市が全部やって出来るかというとなかなか難しく、そこに住んでいる住民の方、商店を営まれている方皆様といろいろ協議し、民間の方の協力を得ながら進んでいかなければならないと思うので、特に地元の商店街の皆様には今後ソフト事業の中で協力をいただきながら、賑わいの創出に励んでいきたい。